

(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
国語	○文脈に即した漢字や事象や行為を表す語彙など、言葉の特徴や使い方に関して理解できている生徒が多い。 ●文章全体と部分との関係を理解して構成や展開を考えたり、自分の考えや根拠を明確にして表現を工夫したりすることが苦手な生徒が多い。	・物語の構成や筆者の論の展開を意識して読む活動や、読み取ったことをもとに自分の考えを書いたり、相互評価をしたりする機会を設け、読みとる力や記述する力を身につけられるようにする。
数学	○「図形」「関数」の領域において、知識・技能が定着している生徒が多い。 ●「数と式」の領域において、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することが苦手な生徒が多い。	・問題を解く際、なぜそうなったのかを考える場面や、生徒が自ら説明する場面を意図的に設ける。 ・式の意味・問題を理解し、目的に応じて式を変形するなど、数学的に説明したり記述したりできるようにする。
理科	●記述する問題についての無回答率が、島根県や全国の割合と比べて高い。 ●分析解釈する問題の正答率が低い。	・自分の考えを表現する練習を毎時間のふり返しシートで行う。 ・観察実験を行うとき、結果の分析の時間を十分に取、科学的な考え方ができるようにする。

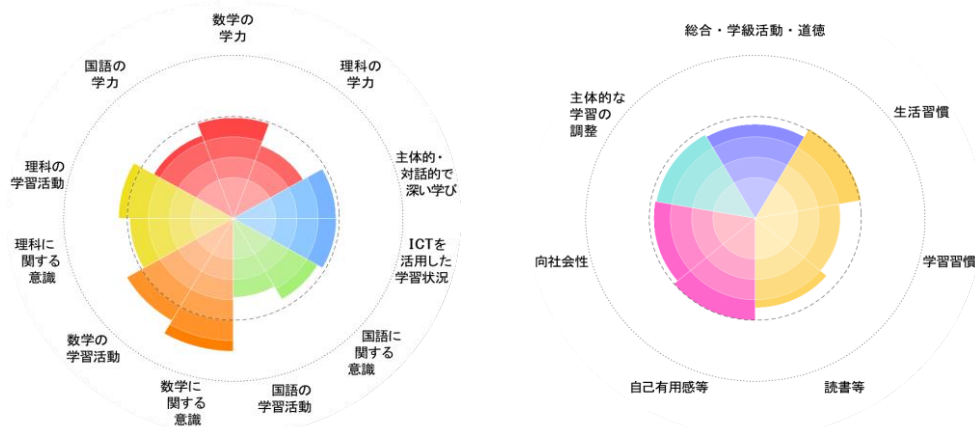
(2) 質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
質問紙	○友達関係に満足している生徒が比較的多く、日々の関わりを通して互いに気遣う雰囲気醸成されている。 ●自己肯定感は比較的高いが、地域や人と関わること、また、家庭学習をはじめ探究心をもって学びを深めたりすることなど、自分の世界を広げることに消極的である。	・各教科、領域での学習において、ICTを効果的に活用して生徒各自の意見や考えを交換する場の設定を増やす。 ・地域の「ひと・もの・こと」を生かした学習の機会を増やす。 ・図書館を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

(3) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・思考力・表現力を高めるために、授業で考える時間を意図的に設定したり、生徒同士を繋げるアプリを使い、他者の考えを参考に話し合う場面作りを工夫したりする。 ・家庭学習を定着させるために、ICTの課題配信アプリを活用したり、自学ノートの使い方を工夫したりする。
------	---

(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

122 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5) 質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

